

中学部「保健体育」(ソフトラクロス) 学習指導案

1. 日 時 令和7年11月11日(火) 第3. 4時限目(10:35~12:05)

2. 場 所 体育館

3. 学部・学年・組 中学部

4. 単元名 「ソフトラクロス」

5. 単元目標

- ・ソフトラクロスの楽しさに触れ、基本的な動き(パス・キャッチ・シュート)ができる。(知・技)
- ・自己やチームの課題を見つけ解決しようとしている。また、ルールを理解し、作戦を考えて他者に伝える力を養う。(思・判・表)
- ・ルールを守り、友だちと協力してゲームをしようとしている。また、場や用具の安全に留意し、運動することで自己の健康・安全の大切さに気づき、最後まで楽しく運動する態度を養う。(学・人)

6. 生徒観

本校中学部の保健体育の授業は、発達段階別に6グループに分けたうちのE班F班を一つのグループとした縦割りの学習班である。本授業の対象であるEF班の実態としては、これまでの運動経験から体を動かすことを好む生徒が多い。簡単な指示を理解し行動に移すことができる生徒や基本的な技術を習得して積極的に取り組むことができる生徒がいる中、初めての取り組みに対して失敗を恐れ消極的になる生徒がいる。また、勝敗によって気持ちのコントロールが難しい生徒やコミュニケーションに課題を持つ生徒もいる。

7. 教材観

ソフトラクロスは、ゴール型のスポーツでありパスやキャッチ、シュートといった基本動作を通して、運動の楽しさや達成感を味わうことができる教材である。スティック(クロス)を使ってボールを扱うことで、空間認知、身体のコントロール力を育むことができる。また本教材は、接触プレーが禁止されていること、シュートを打つ際には、既にチーム内で2回以上パスを繋いでいることなどのルールがあり、安全面やルールが簡素化されていることから特別支援学校での教材として使用されることが多い。本教材は、2チーム編成で練習やミニゲームを実施し、チームメイトとボールを繋ぎ、シュートを打ち、相手チームからゴールを守るディフェンスを協力して行うことで勝敗の結果だけではなく、友だちとの関わりやできた喜びを積み重ね、運動への自信や自己肯定感を育む。さらにルールを理解して守ること、順番や役割を理解することなど、社会性や協調性を育むことができる。

8. 指導観

本教材では、見通しやルール、生徒の導線を明確にすることで安心できる環境づくりを行い、教師や友だちとのポジティブなコミュニケーションを増やすことで前向きな気持ちで取り組めるように努める。また、課題をスモールステップにし、①「ボールをよく見ることができた」②「クロスに当たった」③「キャッチができた」など細かく目標を設定し、小さな変化や成長を見逃さず一人ひとりの「できた」を認める指導を大切にす。運動の得意・不得意や障がいの特性に応じて、ルールの簡略化や、攻撃と守備を時間で区切り役割を明確化し、視覚的支援を取り入れながら、無理なく成功体験が積めるように工夫する。縦割り授業という点を生かして3学年混合チームでの活動を取り入れ、学年を越えた他者との関わり楽しさや、思いやり、協力する姿

勢から社会性や協調性を育てていきたい。指導はティームティーチング体制で行い、主担だけでなくサブ教師も生徒の気持ちに寄り添い、変化や成長を見逃さず、安全に活動できるよう、それぞれを支えることで個別に応じた柔軟な対応と全体の円滑な活動進行の両立を図る。

9. 単元の評価基準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①クロスを使い方を理解して扱おうとしている。 ②基本的なボール操作（パス・キャッチ・シュート）を身に付けようとしている。 ③ゴールを狙ってシュートを打とうとしたり、自チームにパスを出したりしようとしている。	①パスを繋ぐために、クロスの使用方やパスの仕方を工夫しようとしている。 ②相手チームを避けながらパスやキャッチをしようとしている。	①積極的に練習やゲーム参加しようとしている。 ②友だちの良いプレーを褒めようとしている。 ③場や用具の安全に留意して、準備片付けをしようとしている。

10. 単元の指導と評価の計画（全○時間）【必要に応じて行を追加する】

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準
第一次	1 2	・ラクロスの説明	・写真や動画、スライドを見て、説明を聞く。	・写真や動画を使ってイメージをもちやすくする。	A① A② C①
	3 4	・道具に慣れる ・パスキャッチ練習	・クロスを使ってボールを転がしたり運んだりする。 ・教師や友だちと手投げボールをキャッチしてパスで返す。	・クロスを正しく使うことができるように手本を見せる。 ・隣と十分な距離をとるように言葉かけをする。 ・投げたい方向にクロスの先を向けることを意識できるように言葉かけを行う。 ・打つ前に前方、後方を必ず確認するようにする。	
第二次	5 6	・パスキャッチ練習 ・的あてシュート	・ペアになりクロスを使ってパスとキャッチをする。 ・的を狙ってシュート	・隣と十分な距離をとるように言葉かけをする。 ・大きめの的を用意	A② B① C②

	7 8 本時	・シュートゲーム	を打つ。 ・シュート本数を競うミニゲームをする。	し、ゴールにつけることで視覚的に狙う場所をわかりやすくする。 ・チームで協力してたくさんシュートを決められるように言葉かけをする。	
第三次	9 10	・パスキャッチ練習	・DFを設定してパスとキャッチをする。	・ディフェンスの立ち位置をよく見て動けるように事前に見本をみせて行う。	A③ B② C③
	11 12	・パス→キャッチ→シュート練習	・パスキャッチとシュートを繋げる。	・それぞれの動きをスムーズに繋げられるように見本や言葉かけを行う。	
第四次	13 14	・基礎練習（復習）	・パスキャッチ、シュートの基礎練習を行う。	・これまでの練習でのポイントを振り返りながら行う。	A③ B③ C②
	15 16	・ミニゲーム	・3 on 3の少数設定で行う。	・攻撃エリア、守備エリアに分けて時間を設定して行う。	

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ①基本的なボール操作を身に付け、パスやシュートをする。(知・技)
- ②クロスの使い方やパスの仕方を工夫する。(思・判・表)
- ③友だちの良いプレーを褒めたり、応援したりできる。(学・人)

(2) 本時の評価規準

- ①基本的なボール操作（パス・キャッチ・シュート）を身に付けようとしている。(A②)
- ②クロスの使い方やパスの仕方を工夫しようとしている。(B①)
- ③友だちの良いプレーを褒めたり、応援したりしようとしている。(C②)

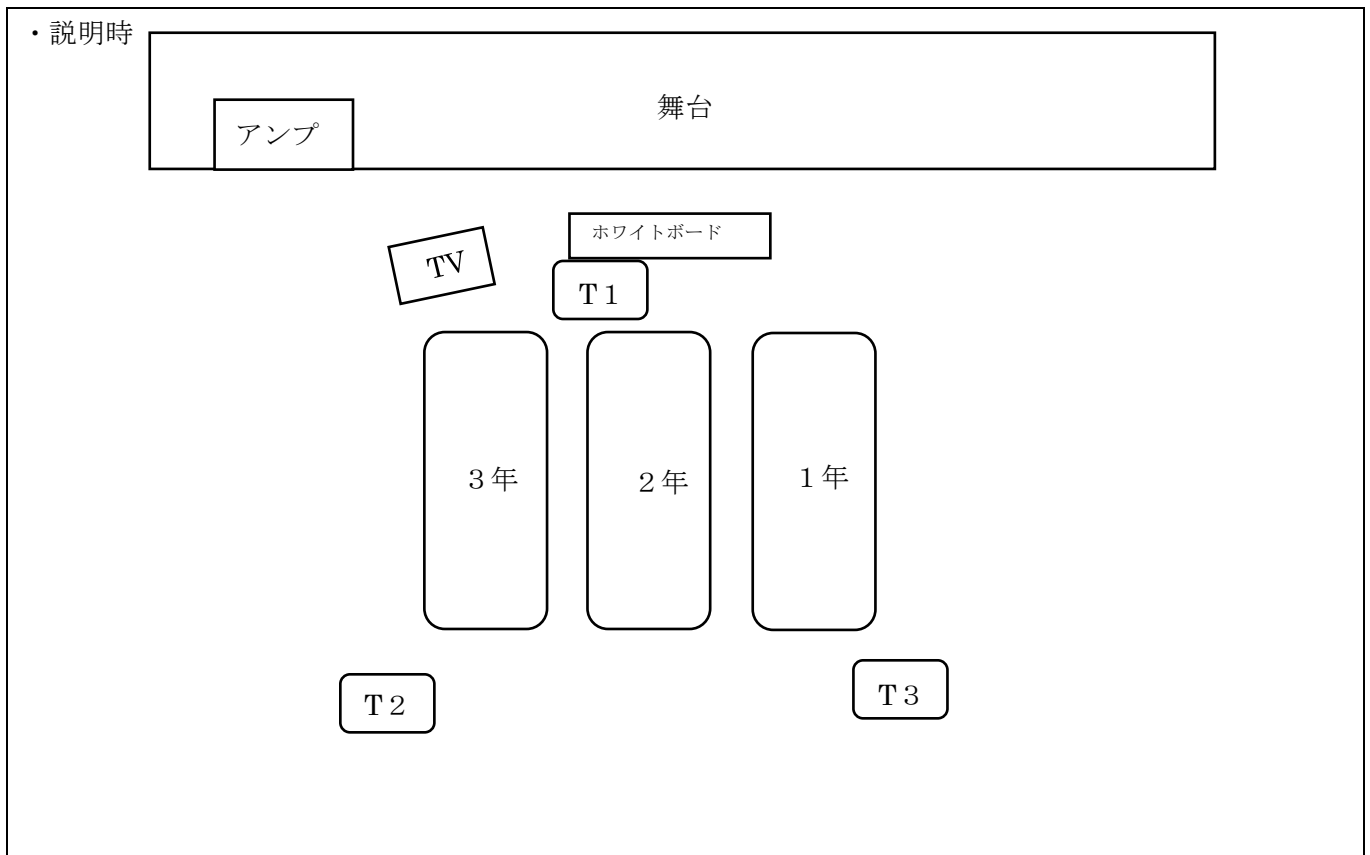
(3) 本時で扱う教材・教具

スティック（クロス）赤9本青9本、ボール9個、ゴールネット2個、カラーコーン、ホワイトボード、テレビ、アンプ、コード類

5 分 ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り ・次回の予告 ・あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをする。 ・次回から動きを増やしていくことやディフェンスを意識していくことを伝え、見通しをもてるようにする。(T1) ・姿勢を正し、代表者に視線を向けるよう促す。(T1～T3) 	
-----------------------	--	--	--

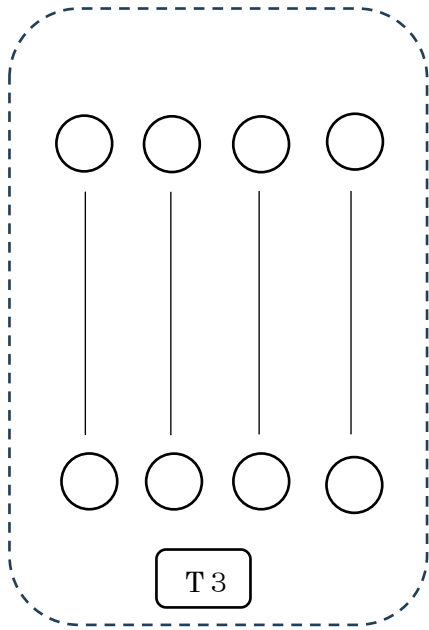
(5) 教室配置等

(正面を上にして、生徒や教員の位置、準備した教材・教具の位置、配置等を示す。)

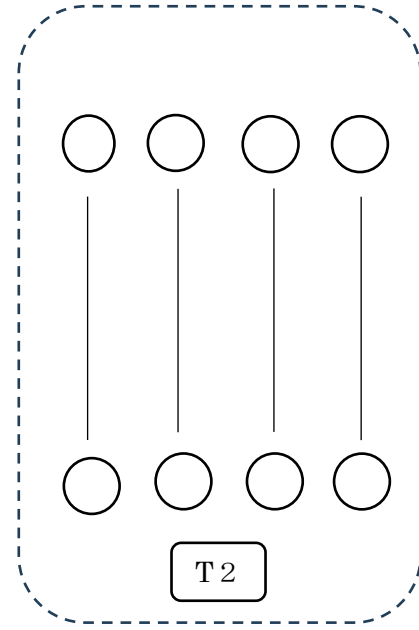


・活動時①

パスキャッチ練習



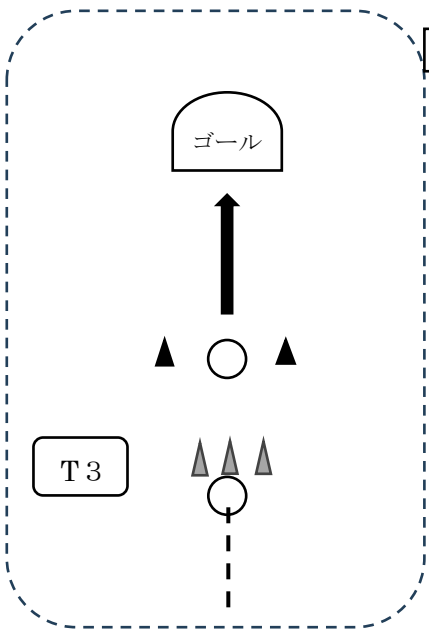
T1



舞台

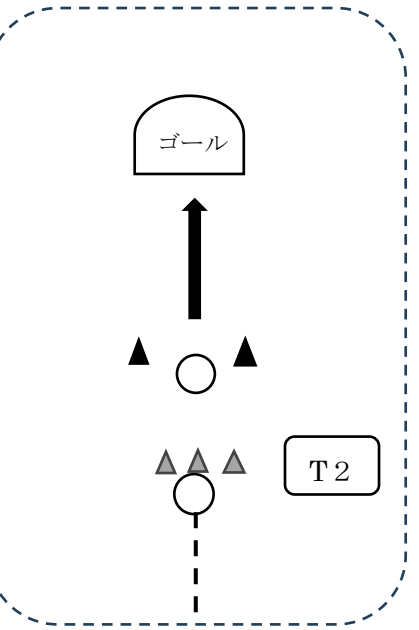
・活動時②

的あてシュート・シュートゲーム



ホワイトボード

T1



舞台